

事務局報告にかかる議事概要

1 開催日時及び場所

平成24年1月20日（火）定例教育委員会終了後、午後2時55分～午後3時30分
教育委員会室

2 出席者

教育委員会定例会出席者に同じ

3 事務局報告の概要

（1）教員の指導力向上に向けた取組みについて

総合教育センター長兼教育研修課長が、教員の指導力向上に向けた取組みの現状について説明し、意見交換を行った。

（委員からの主な意見等）

- ・教員の研修講座数はたくさんあるが、一人あたり平均何講座程度を受講しているか。

（総合教育センター長兼教育研修課長から補足説明）

県の総合教育センター主催の講座については、受講率は全教員に対して年40%程度である。このほかに、市町村教育委員会主催等の講座も受講しており、統計をとっていないので、感覚的な数字になるが、1回につき何日研修なのかは別にして、多くて年3～4回程度ではないかと思われる。

- ・ベテランの教員よりも、初任者の方が研修受講数が多いのか。

（総合教育センター長兼教育研修課長から補足説明）

初任者は、年間20日間の校外研修を受ける。また、このほかに校内研修も行っている。2年目、3年目、4年目、6年目と、研修日数や研修内容に変化を付けながら、指導力の育成を図っている。

- ・研修講座の受講料は、教員が負担するのか。

（総合教育センター長兼教育研修課長から補足説明）

県教育委員会や市町村教育委員会が主催する研修は、業務として受講するので、受講料は不要である。10年に一度の教員免許の更新講習については、有料であり、個人負担となっている。

- ・社会情勢が目まぐるしく変わる中で、教員が世の中の勉強をするために校外へ出ていく取組みも必要なのではないか。

（総合教育センター長兼教育研修課長から補足説明）

民間企業で研修を行ったり、12年目研修の一コマとして社会貢献活動を行う取組みも行っている。また、学校のリーダーとなる教員を民間企業で研修させ、学校経営に活かす仕組みも取り入れている。

- ・総合教育センターの研修は、希望者のみが受講するのか。

（総合教育センター長兼教育研修課長から補足説明）

悉皆で受講する研修と、希望者が受講する研修に分かれる。該当者が全員受講する研修としては、経験年数や職務に応じた研修がある。教育課題（いじめ、不登校、危機管理等）に応じ

ホームページ公開

た研修については希望者が受講する。年2回の自己啓発面談において、校長の教育方針を教員に理解させる取り組みを実施しているが、この中で、校長が、教員に対して自己啓発としての研修受講を促している。これらを通じて、教員の指導力向上につとめている。

- ・研修は平日に行うのか。

(総合教育センター長兼教育研修課長から補足説明)

研修は、業務として行うため、基本的には平日に実施する。

- ・教員は、総合教育センターが行う研修には満足しているのか。現場で働く教員のニーズに応じた研修を行っているか。

(総合教育センター長兼教育研修課長から補足説明)

研修実施後に、受講者に対するアンケートを行っている。講座の内容には満足してもらっているが、現場の教員が自分を成長させる仕組みとしての研修としてどう考えているかというところまで踏み込んだ内容のアンケートにはなっていない。現場の教員や校長からは、本当はもっと勉強をしたいが、毎日学校で子どもを教えることが本業であるので、時間調整が難しく、十分満足がいくだけの研修を受けづらいという声がある。このため、学校において研修を行うなどの機会を充実させていく。

- ・NHKの「ようこそ先輩」という番組に出演した経験がある。小学6年生と3日間授業に取り組んだ。刃物を使って缶を作る授業を行い、自分のことを「師匠」と呼ぶように言い、自分がリーダーであることを徹底させた。授業の中で、日頃話をできなかった子どもが、実は彫刻が上手であることが分かったり、給食を一緒に食べることで子どもたちとの交流が深まった。担任の教員からは、目からウロコの授業内容だったと言われた。また、福井県の永平寺中学校では、参禅教育など特徴ある取組みを視察した。既成概念の枠にとらわれず、視点を変えて、どのような研修をしていくかを本気で考える時期がきている。

- ・可茂地域の高等学校で演劇表現ワークショップを視察した。普通の授業が成り立ちにくい状況の学校で、演出家が演技を通じて人間のコミュニケーションや創造力、イマジネーションを伝え、一人一人の生徒を大切に育てていく取組みがされていた。こういった視点を変えた取組みを研修に取り入れてもよいのではないかと思った。

- ・教員の研修については、受け身ではなく、キャッチボール型の内容が必要なのではないか。

- ・生徒を人として大切にすることができる教員を養成してほしい。そういったことが基本にあって、授業が成り立つと思う。

(総合教育センター長兼教育研修課長から補足説明)

最近では、講師が一方向的に話すといった、旧態依然とした講義型の研修は少なくなり、演習やグループワークを取り入れている。確かに、研修内容は、授業や教育相談や危機管理といったことが中心になりがちであるが、大阪府教育センターでは、演劇を取り入れた研修を行っていること承知しており、ご指摘のとおり、研修にも様々なアプローチの仕方があるので、研究していきたい。また、市町村教育委員会の研修担当者に対する研修も充実させていきたい。

(2) 県立岐阜本巣特別支援学校での事故損害賠償について

教職員課長が、県立岐阜本巣特別支援学校での事故損害賠償について報告した。

(特に意見なし)

ホームページ公開

(3) 県立希望が丘学園及び県立岐阜希望が丘特別支援学校の再整備について（非公開案件）

特別支援教育課長が、県立希望が丘学園及び県立岐阜希望が丘特別支援学校の再整備に係る基本設計が固まったことを報告し、意見交換を行った。

（非公開案件のため議事概要は別途作成）

(4) 平成24年度教育委員行事予定について

教育総務課長から、昨月からの変更点について説明を行った。また、発掘速報展（岐阜県博物館）及びクリスタルパーク恵那スケート場のウィンターシーズン開催について紹介した。

（特に意見なし）

以上